

半分の人が「何歳でもよい」と考えている(問17)。結婚年齢にこだわらない割合は、年齢が高くなるにつれて大きくなる(表5-4)。

具体的な希望結婚年齢では、男性の方が女性よりも、約2歳ほど高い(男性31.2歳、女性29.4歳)。また、「できればすぐにでも結婚したい人」は、「いずれは結婚したい」と考えている人よりも希望する結婚年齢が若い(28.6歳と30.6歳)。希望する結婚年齢と現在の自分の差(希望結婚までの年数)では、男女ともに年齢の高い者ほど期間が短かった。

次に「男性の結婚適齢期」「女性の結婚適齢期」があると思うか、それぞれたずねたところ、男性の適齢期・女性の適齢期ともに、男性回答者のほうが「結婚適齢期があると思う」と答えた割合が高かった。「男性の結婚適齢期がある」と回答した男性回答者の割合は、48.3%、これに対して女性回答者の割合は36.2%であった。女性回答者は年齢が高くなるに従って、「男性の結婚適齢期がある」と思う人の割合は低下する。また女性の結婚適齢期がある」と回答した男性回答者の割合は、58.3%、これに対して女性回答者の割合は50.5%であった。

5-3. 収入からみた結婚条件

結婚の意思のある者に対して、「配偶者と自分の収入を合わせて、手取りで月収がどのくらいあれば結婚しても良いと思うか」たずねたところ、男性の場合、「30~40万円未満」が最も多く34.6%、「40~50万円未満」の26.3%がこれに続く。女性については、男性よりも高い年収を結婚条件として捉える傾向にあり、最も多かったのは、「40~50万円未満」(28.2%)であり、これに「50~60万円未満」(21.4%)が続く。さらに、女性の場合は、「60~70万円未満」と答えた人も12.0%ほどいた。このように、女性のほうが男性よりも、高い月収を必要と考える傾向がある。

表5-5 結婚してもよいと思う手取り月収

		(%)								
		総数	20万円未満	20~30万円未満	30~40万円未満	40~50万円未満	50~60万円未満	60~70万円未満	70万円以上	わからない
男性	20~24歳	100(N=37)	-	13.2	26.3	21.1	13.2	5.3	10.5	10.5
	25~29歳	100(N=53)	-	11.3	37.7	24.5	13.2	-	5.7	7.5
	30~34歳	100(N=35)	2.8	5.6	36.1	25.0	16.7	-	2.8	11.1
	35~39歳	100(N=31)	-	12.9	38.7	25.8	9.7	-	3.2	9.7
	40歳以上	100(N=21)	-	4.8	33.3	42.9	9.5	-	4.8	4.8
	総数	100(N=177)	0.6	10.1	34.6	26.3	12.8	1.1	5.6	8.9
女性	20~24歳	100(N=64)	-	3.1	21.9	31.3	20.3	6.3	3.1	14.1
	25~29歳	100(N=80)	-	6.3	20.0	23.8	27.5	8.8	3.8	10.0
	30~34歳	100(N=37)	-	2.7	10.8	27.0	18.9	24.3	0.0	16.2
	35~39歳	100(N=33)	-	3.0	9.1	27.3	15.2	15.2	18.2	12.1
	40歳以上	100(N=20)	-	-	5.0	40.0	15.0	15.0	5.0	20.0
	総数	100(N=234)	-	3.8	16.2	28.2	21.4	12.0	5.1	13.2

5-4. 独身希望理由

結婚に対する意思がないと答えた者(問 16 で「このまま独身でいたい」と回答した者)に対して、その理由をたずねたところ、第一の理由は、男性の場合、「結婚する必要性を感じない」(50.0%)が最も多く、続いて「独身の自由や気軽さを失いたくない」(31.8%)を回答する割合が高かった。女性については、「独身の自由や気軽さを失いたくない」(46.2%)と「結婚する必要性を感じない」(43.6%)と答えた者が多かった。

表 5-6 独身でいたい第一の理由

	総数	仕事に専念したい	独身の自由や気軽さを失いたくない	結婚する必要性を感じない	経済的に負担が大きくなる	異性と付き合いたくない	その他
男性	100(N=22)	4.5	31.8	50.0	4.5	4.5	4.5
女性	100(N=39)	2.6	46.2	43.6	-	-	7.7

5-5. 父親の仕事と家庭のバランス

未婚者のイメージする理想の父親像はどのようなものであろうか。またそれは、実際に回答者が経験した自分の父親の実態と比べてどのようなものであろうか。「実際に回答者が15歳のころの父親が仕事と家庭のどちらを優先していたか」と「仕事と家庭のバランスと言う点でどのような父親像が望ましいと思うか」について、1(家庭優先)から9(仕事優先)までのリッカード法にもとづく尺度項目を評定してもらった。

「回答者が15歳のころの父親」についての平均値は、男性5.9 女性6.1 とやや仕事優先によっている。これと比べると「あなた望む父親像」の平均値は男性女性それぞれ4.9であり仕事と家庭のバランスがよく、また「15歳のころの父親」よりも家庭優先へ向かう結果となった。また「15歳のころの父親」と「あなたの望む父親像」の間には、相関が認められ(Pearson 相関係数, 男:0.315, 女:0.319), つまり、実際の父親が家庭優先であった場合理想の父親像も家庭優先傾向があり、仕事優先についても同様の傾向がある。

また、「あなたの望む父親像」と「現在の結婚に対する意欲の強さ(問 12)」の間には、女性のみマイナスの相関が見られ(Pearson 相関係数, 男:-0.069, 女:-0.206), 女性の場合は家庭優先の理想像を持っている場合結婚意欲が強い傾向があることがわかる。

表 5-7 15歳のころの父親の仕事と家庭のバランス

	15歳のころのあなたの父親の仕事と家庭のバランス(%)										平均値
	総数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
男性	100(N=195)	1.0	2.1	5.1	7.7	29.7	14.9	23.1	10.8	5.6	5.9
女性	100(N=260)	0.8	1.5	5.8	9.2	25.8	13.5	18.8	15.0	9.6	6.1

表 5-6 あなたの望む父親の仕事と家庭のバランス

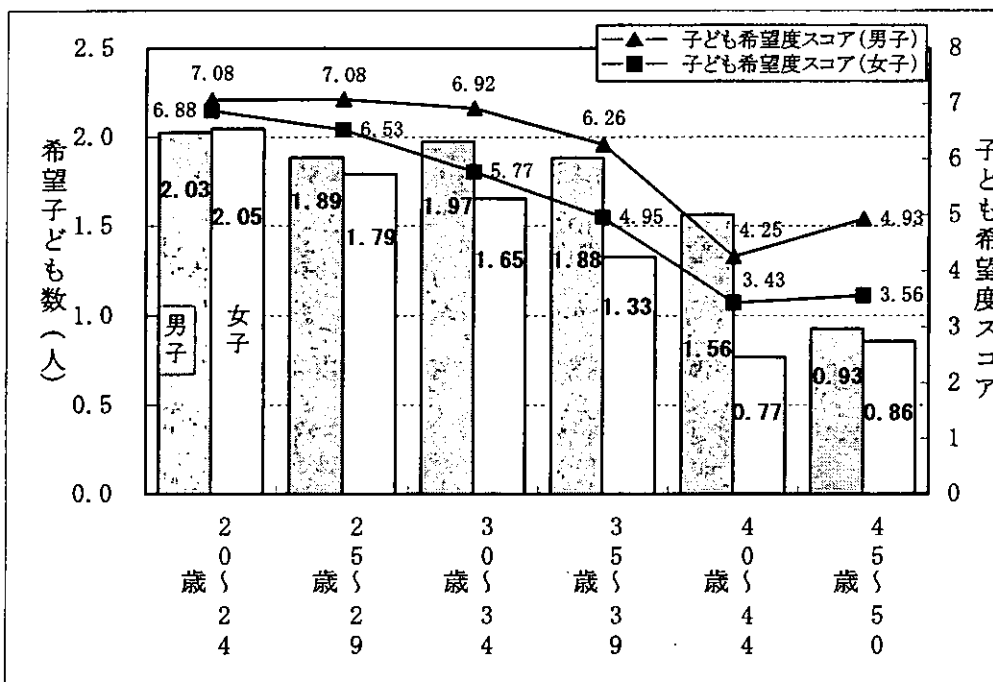
	あなたの望む父親の仕事と家庭のバランス(%)										平均値
	総数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
男性	100(N=209)	3.5	2.5	10.4	14.9	42.3	12.4	10.4	3.0	0.5	4.9
女性	100(N=272)	2.6	2.6	9.2	14.0	46.3	15.8	7.0	0.7	1.8	4.9

6. 子ども

将来の子どもの持ち方について、希望子ども数と子どもを持ちたいという気持ちの度合い（子ども希望度）をたずねた。図6-1は、男女別、年齢5歳階級別に希望子ども数と子ども希望度の平均値を描いたものである。これによると、まず男女別では女子の希望子ども数、子ども希望度が男子より低い点が注目される。20～24歳時点では、まだ結婚・出産が現実のものとして考えられない人が多いためか男女差はほとんどないが、結婚・出産が身に迫った問題として考えられるようになる20代後半から30代で、女子の希望子ども数、子ども希望度の平均値がともに減少し、男子との差が大きくなっている。

※ 子ども希望度：「あなたは、将来自分が子どもを持つことについてどう考えていますか」について、1「子どもは持たなくてよい」から9「子どもは必ず持ちたい」までの範囲で自分の考えにあてはまる数字を回答してもらった。

図6-1 男女別、年齢5歳階級別、平均希望子ども数と子ども希望度の平均スコア



将来の出生と関連が大きい35歳未満のサンプルについて限定して希望子ども数、子ども希望度についてみると、希望子ども数では男性より女性のほうが子ども0人、1人を希望する人が多い（表6-1）。おおむね、男性の方が希望子ども数は多いといえる。子ども希望度についても、子どもは持たなくてもよいとするスコア1に○をした割合は女性のほうが多かった（表6-2）。ただし、全体の平均は男性6.5、女性5.9で5を超えており、

どちらかという子どもを持ちたいと考えている独身者が多いことがわかる。

表 6-1 男女別、希望子ども数の分布 (35 歳未満の回答者のみ)

希望 子ども数	割合		度数	
	男性	女性	男性	女性
0人	8.0%	10.2%	11	20
1人	10.2	14.3	14	28
2人	63.5	57.7	87	113
3人	15.3	16.8	21	33
4人	2.9	1.0	4	2
総計	100.0	100.0	137	196

表 6-2 男女別、子ども希望度の分布 (35 歳未満の回答者のみ)

スコア	割合		度数	
	男性	女性	男性	女性
1	4.3%	7.5%	6	15
2	1.4	5.0	2	10
3	9.4	8.0	13	16
4	0.7	3.0	1	6
5	5.8	9.0	8	18
6	7.2	10.0	10	20
7	14.5	9.0	20	18
8	17.4	12.9	24	26
9	39.1	35.8	54	72
総計	100.0	100.0	138	201

7. 未婚者の居住形態と意識

居住形態は、若者のライフスタイルや親子関係、結婚や家族に関する価値観などを規定する重要な要因とされている。本調査では、同居者や離家（親の家を離れること）時の状況など、独身男女の居住形態に関する詳細なデータを得ている。これらのデータを元に、品川区における未婚者の居住形態について明らかにし、彼らの居住形態が自立意識や結婚意欲、子どもをもつことに対する意思とどのように関わっているのかについて以下に報告する。ここでは未婚の20歳から40歳の男女を分析の対象とした。

7-1. 未婚者の居住形態

表 7-1. 性別未婚者の居住形態 (%)

親との同居	同居者の内訳	男性	女性
親と同居	両親	35.1	40.2
	うち祖父母も同居	(5.7)	(7.4)
	片親	8.0	8.6
	うち祖父母も同居	(2.9)	(1.6)
	小計	43.1	48.8
	全国平均 ^注	62.7	74.2
親と別居	一人暮らし	50.0	43.9
	恋人・その他	6.9	7.4
	うちその他(兄弟姉妹・友人等)	(1.7)	(2.0)
	小計	56.9	51.2
合計		100	100
回答者数		n=174	n=244

注：平成7年国勢調査による20-39歳の未婚者の親子同居割合

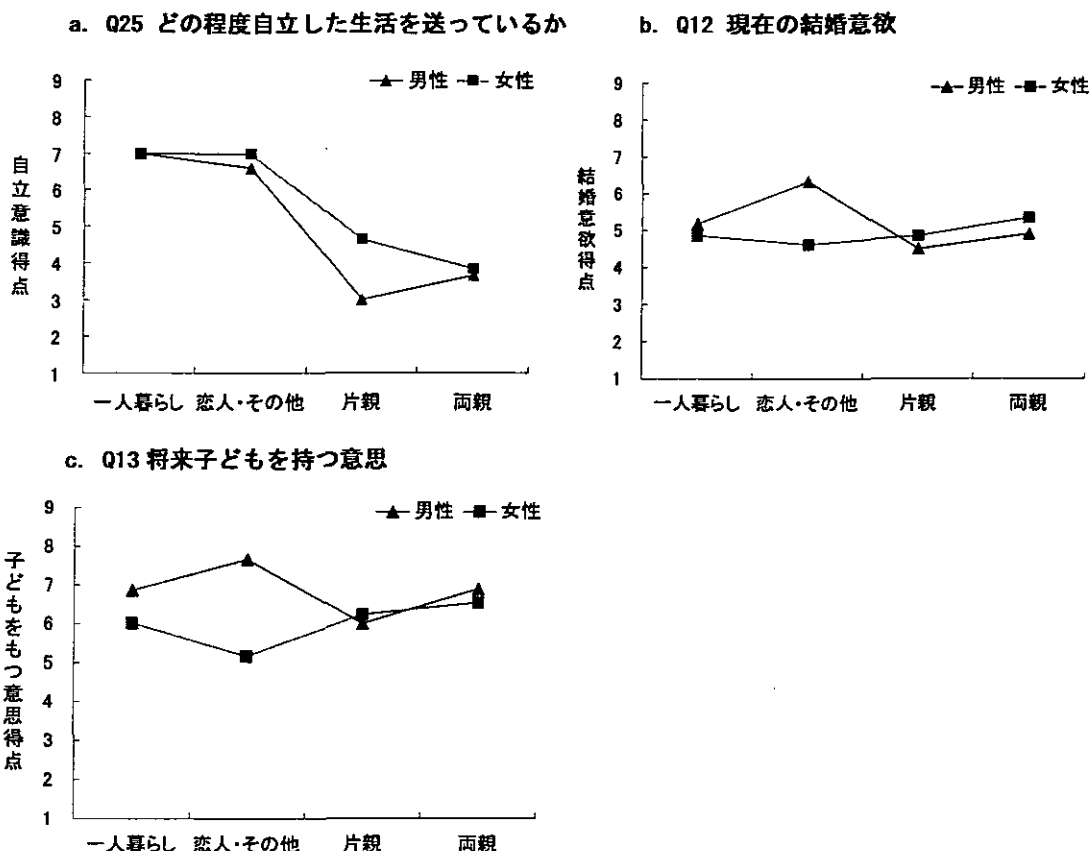
品川区に在住する未婚男女の居住形態を表 7-1 に示した。未婚者の居住形態には、性別による大きな差はみられない。親との同居と別居がほぼ半数ずつとなっている。全国平均と比べると、男女ともに親同居者の割合が20%ほど低いことが明らかである。品川区において親同居の割合が低いのは、進学や就職により、品川区外から転入してきた者が相当数居住していることを示唆している。

親と別居している者の多くは1人で暮らしている。しかし、全体の7%弱の未婚者が恋人や友人、兄弟姉妹等と同居している。このうち恋人との同居すなわち同棲中の者が男女ともに全体の5%程度を占めている。この値は、未婚者の同棲割合の全国平均(1.7%)¹⁾を上回るものとなっている。品川区のような大都市部では、結婚にとらわれないカップル形態が進行しているといえよう。

1) 国立社会保障・人口問題研究所が行った「第11回出生動向基本調査」(1997年実施)による。

7-2. 未婚者の居住形態と自立・結婚・子どもに関する意識

図 7-2. 未婚者の性別, 居住形態別自立, 結婚, 子どもに関する意識の得点分布



未婚者の自立, 結婚, 子どもに関する意識の平均点を性別, 居住形態別に図示したものが図 7-2 である。各項目は 9 段階尺度で回答を得ており, 得点が高いほど自立しているという意識が高く, 結婚意欲や子どもをもつ意思が強いことを表している。

自立意識は, 居住形態によって最も大きく変動している (図 7-2 の a)。男女ともに親と別居している者のほうが, 自らが自立していると考える傾向がある。未婚者の自立と居住形態が密接な繋がりをもっていることが示唆される。

次に, 結婚意欲についてみると, 恋人や友人等と同居している者において, 男女間に大きな違いがみられる (図 7-2 の b)。先にも述べたように, 恋人・その他との同居は, 同棲と考えることができる。男性は結婚を望む者が同棲しているのに対し, 女性は結婚を望まない者が同棲という居住形態を選択している。この傾向は子どもをもつ意思においてさらに顕著になっている (図 7-2 の c)。このことから, 男性は結婚の前段階として同棲を選択するのに対し, 女性は結婚の代替として同棲を選択しているという結果が示唆される。

その他の特徴として, ①片親家庭の男性は, 自立した生活を営んでいるという意識が低く, 結婚意欲や将来子どもをもちたいという意欲にも乏しい傾向があること。②女性は両親と同居している者ほど, 結婚や子どもをもつ意欲が高い傾向があることを挙げられる。

8. 価値観

8-1. 生き方や考え方について

「生き方や考え方」については、独身者票の問15にaからlまで12項目にわたって質問している。これらは過去に実施された各種調査をもとに、わが国における生き方や考え方に関する価値観をあらわすと思われる質問で構成されている。それぞれの質問に対し、「そう思う」から「そうは思わない」の4段階の回答を選択する。個々の質問項目についての分布は集計表（巻末資料）を参照されたい。ここでは、これらの質問に対する回答を主成分分析により価値観尺度として凝縮し、合成してみることにする。生き方や考え方については、さまざまな側面から考察しなくてはならないが、それぞれから得られる情報も多様になり解釈がむずかしくなる。主成分分析とはそれらの情報を凝縮させ、ある一定の方向性を見出そうとする因子分析の一手法である。

表8-1 生き方や考え方に関する質問についての主成分分析結果

	主成分行列		バリマックス回転後	
	第1主成分	第2主成分	第1主成分	第2主成分
問15-a 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	0.719	-0.221	0.701	0.272
問15-b 子どもが小さいうちは、母親は育児に専念すべきだ	0.679	-0.149	0.625	0.304
問15-c 年をとった親は子どもが面倒をみるべきだ	0.512	0.310	0.210	0.560
問15-d 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきだ	0.619	0.477	0.190	0.758
問15-e 子どもは法的に結婚した夫婦の間で生まれるべきだ	0.556	0.508	0.122	0.743
問15-h 男性も身の回りのことや家事をするべきだ	0.345	-0.338	0.480	-0.052
問15-i 一生独身でいるより、結婚したほうが良い	0.470	0.523	0.045	0.701
問15-j 夫に十分な収入がある場合、妻は仕事を待たないほうが良い	0.629	-0.381	0.729	0.091
問15-k 妻にとって、自分の仕事をもつよりも夫の仕事の手助けをする方が大切	0.698	-0.314	0.743	0.186
問15-l 母親が働くこと、小学校にあがる前の子どもに良くない影響を与える	0.654	-0.223	0.652	0.230

表8-1は、問15のうちfの「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」と、gの「女性が自立するには仕事を持つことが必要である」を除いた10項目を投入した主成分分析結果である。なお、この2問は今回の分析では独身票および夫婦票のどちらにおいても他の項目とはことなる回答分布を示したため除外することとした。主成分行列の第1主成分はどの項目もプラスの比較的高い数値を示している。この特徴をもう少し明確にするために行った軸の回転後（バリマックス回転）の数値を見ると、第1主成分ではdの「男女が一緒に暮らすなら結婚すべきだ」とeの「子どもは法的に結婚した夫婦の間で生まれるべきだ」、そしてiの「一生独身でいるより、結婚したほうが良い」が低い数値をしめし、また第2主成分では高い数値を示している。第2主成分は「伝統的結婚観」をあらわす尺

度として、またそれらを除いた項目で高い値も示す第1主成分は家庭内の夫と妻の役割分担を表す項目を多く含んでいることから「伝統的性役割」を示すものと考えて良いだろう。

表8-2は上記の「伝統的性役割」と「伝統的結婚観」について、男女別年齢別の平均値の比較である。全年齢で見ると男性が男女の役割分担について正の値であるのに対し、女性は負を示している。また伝統的結婚観ではそれが逆転し、男性が負、女性が正である。男性は男女の役割では伝統的な考え方を持つのに対し、結婚については伝統的な価値観にはとらわれない傾向、女性はそれとは逆に性役割では革新的に、結婚には伝統的な価値観をもつようである。

では伝統的性役割観を年齢別に見てみよう。男性は20-24歳のグループでのみ負、その次の25-29歳で正の低い値である。その後年齢を加えていくに従って平均値が上昇していく。つまり夫と妻の家庭内の役割分担については、年齢があがればあがるほど保守的な考え方が強くなることを意味する。

これに対して女性は、20歳代の前半と後半で他の年齢グループよりも弱い負の値を示しているが、30歳代前半と40歳代前半ではその負の値が大きなものとなっている。男性が伝統的な考え方を持つのに対して、女性がこのように逆の考え方をもっていることが明らかとなったのは興味深い。

表8-2 伝統的役割と伝統的結婚観に関する男女の差

	年齢	男性			女性		
		平均値	標準偏差	回答者数	平均値	標準偏差	回答者数
伝 統 的 性 役 割	20-24歳	-0.067	0.786	39	-0.085	0.981	65
	25-29歳	0.155	1.109	61	-0.044	0.934	91
	30-34歳	0.213	0.951	42	-0.366	0.933	57
	35-39歳	0.312	0.974	34	-0.109	1.021	46
	40-44歳	0.354	1.287	18	-0.308	1.000	16
	45-50歳	0.781	0.946	17	-0.228	0.887	20
	全年齢	0.218	1.018	211	-0.152	0.959	295
伝 統 的 結 婚 観	20-24歳	0.004	0.981	39	0.205	0.857	65
	25-29歳	0.034	1.017	61	0.094	0.930	91
	30-34歳	0.037	1.038	42	-0.271	1.058	57
	35-39歳	0.196	0.978	34	-0.162	1.000	46
	40-44歳	-0.450	1.248	18	-0.008	1.148	16
	45-50歳	-0.287	0.880	17	0.324	0.818	20
	全年齢	-0.012	1.023	211	0.018	0.969	295

伝統的結婚観については、男女とも20歳代では正の傾向を示している。男女が一緒に暮らすなら結婚すべきであるし、婚外子は好ましくなく、一生ひとりであるより結婚したほうが良いという考えをもっていることとなる。しかしながら、30歳代になるとその考え方は一変する。女性は負の値、つまり伝統的結婚観と決別するのと反対に、男性はますます伝統的になっていくのである。さすがに40歳代になると独身男性も伝統的結婚観にこだわらなくなる。

2000年の国勢調査によると、30歳代前半の女性の26.6%が男性の42.9%が未婚である。また、30歳代後半でも女性が13.8%、男性の25.7%が未婚である。わが国の少子化のもっとも大きな要因は、20代後半から30代後半の男女が結婚をせず再生産活動に移行しないことである。今回の調査からも明らかなように、男女の間には夫と妻の役割分担についての考え方や価値観、そして結婚観についての男女差が存在している。男性は伝統的な妻として母としての役割を担ってくれる女性を求め、年齢が上昇すればするほどその傾向が強くなる。しかしながら女性は伝統的な役割分担ではなく、夫との新しい時代の関係を求めているのである。結婚については、女性は堅実な関係を望み、男性はそれにはとらわれない考え方をもっている。このような相違が存在し、さらに男女間の意識の乖離がすすめば、晩婚化や非婚化を食い止めることは不可能となる。

10. 品川区

独身者が品川区をどのように評価しているかについて、品川区の満足度に対する回答から探る。

表 10-1

表10-1 品川区:居住期間別満足度

は居住期間別にみた品川区に対する満足度を示したものであり、また

図 10-1 はその平均満足度を計算したものである（総回答数 474）。表 10-1 から、有配偶者票による結果と比べて高い満足度を示す回答が多く、居住期間合計では、満足度 5 以上と回答した割合は 89.9% に達しており、満足度の平均は 6.6 であった（有配偶者（妻）では 5.8）。

居住期間↓	満足度→									9計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1年以内	3.2%	3.2%	3.2%	12.9%	25.8%	9.7%	29.0%	6.5%	6.5%	100.0%
1~2年	1.8%	1.8%	3.6%	5.5%	14.5%	9.1%	40.0%	12.7%	10.9%	100.0%
3~5年	2.3%	0.0%	4.5%	5.7%	14.8%	21.6%	30.7%	12.5%	8.0%	100.0%
6~10年	3.6%	0.0%	1.8%	0.0%	7.1%	21.4%	41.1%	16.1%	8.9%	100.0%
11~20年	0.0%	0.0%	1.3%	6.6%	13.2%	17.1%	21.1%	30.3%	10.5%	100.0%
21年以上	1.2%	1.2%	4.2%	1.8%	14.9%	6.5%	25.0%	27.4%	17.9%	100.0%
合計	1.7%	0.8%	3.4%	4.2%	14.3%	13.3%	29.3%	20.7%	12.2%	100.0%

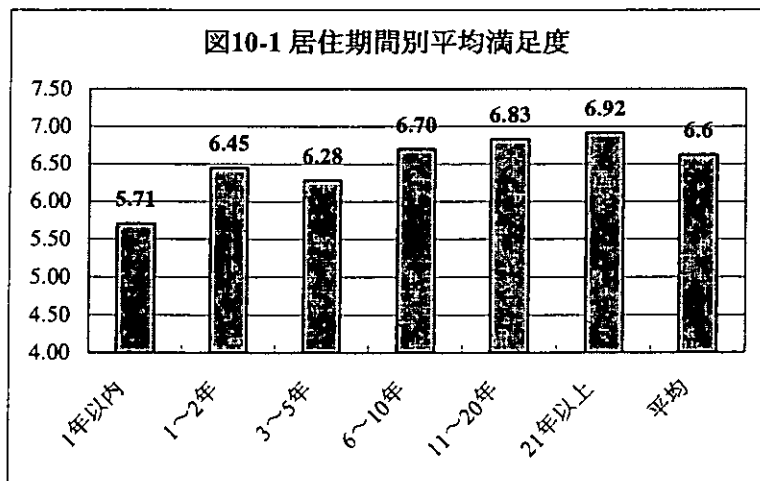


図 10-1 から居住期間が長くなるにつれ満足度が高くなる傾向が見られる。居住期間が 1 年以内の者では満足度が 5.71 であるのに対し、21 年以上居住している者は 6.92 と大きく上昇している。

表 10-2 は

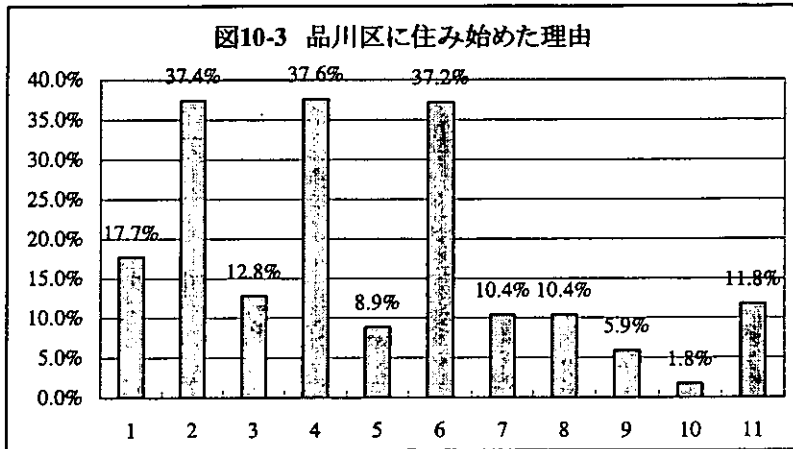
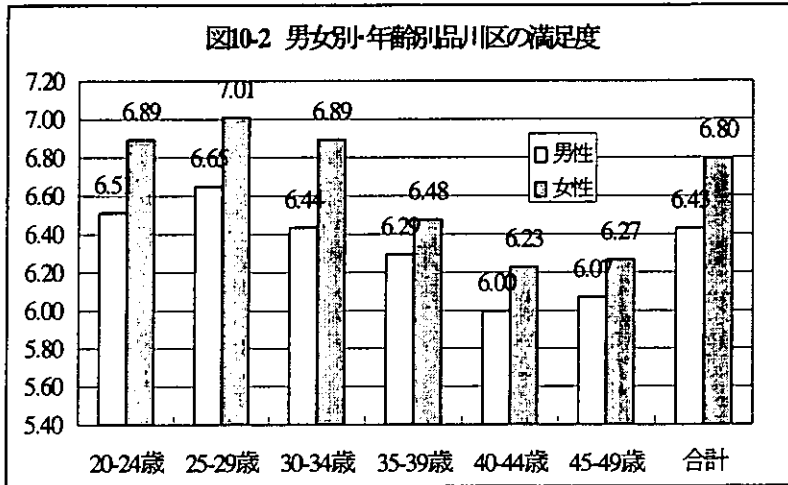
表10-2 品川区:年齢別満足度

男女別・年齢 5 歳階級別にみた品川区の満足度である。年齢計の結果をみると、満足度 5 以上を回答した者の割合は、男性では 86.6%、女性では 92.3% にのぼ

年齢別↓	男性 満足度→									9計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
20-24歳	5.1%	2.6%	5.1%	2.6%	2.6%	12.8%	35.9%	25.6%	7.7%	100.0%
25-29歳	3.3%	1.7%	3.3%	1.7%	15.0%	11.7%	26.7%	20.0%	16.7%	100.0%
30-34歳	2.6%	0.0%	5.1%	5.1%	7.7%	23.1%	30.8%	17.9%	7.7%	100.0%
35-39歳	2.9%	0.0%	5.9%	8.8%	20.6%	5.9%	29.4%	8.8%	17.6%	100.0%
40-44歳	6.3%	0.0%	18.8%	0.0%	12.5%	6.3%	25.0%	18.8%	12.5%	100.0%
45-49歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	21.4%	21.4%	14.3%	0.0%	100.0%
合計	3.5%	1.0%	5.4%	3.5%	13.9%	13.4%	29.2%	18.3%	11.9%	100.0%

年齢別↓	女性 満足度→									9計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
20-24歳	0.0%	0.0%	3.1%	4.6%	10.8%	10.8%	35.4%	23.1%	12.3%	100.0%
25-29歳	0.0%	1.1%	2.3%	4.6%	10.3%	10.3%	27.6%	26.4%	17.2%	100.0%
30-34歳	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	12.8%	21.3%	25.5%	23.4%	12.8%	100.0%
35-39歳	0.0%	0.0%	2.3%	6.8%	20.5%	13.6%	29.5%	22.7%	4.5%	100.0%
40-44歳	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	30.8%	7.7%	30.8%	15.4%	7.7%	100.0%
45-49歳	0.0%	0.0%	6.7%	6.7%	26.7%	13.3%	26.7%	0.0%	20.0%	100.0%
合計	0.0%	0.7%	2.2%	4.8%	14.4%	12.9%	29.5%	22.5%	12.9%	100.0%

った。図 10-2 は平均満足度を計算した結果である。男性の平均は 6.43、女性の平均は 6.80 と、女性の方が高い満足度を示していることがわかる。年齢別にみると、男女とも若年層ほど高い満足度を示しており、とりわけ 25～29 歳女性の満足度は 7.01 であった。なお、有配偶者票の結果（妻）の平均満足度は 5.8 であった。



アンケートの間 41 では住み始めた理由を聞いているが、図 10-3 は各設問肢に回答した割合をグラフに表したものである。回答が多かったのは 4. (親が近くに住んでいる), 2. (仕事や通学に都合がいい), 6. (交通の便がいい) などで、それぞれ 37% を超える者が品川区に住みはじめた理由として挙げている。

注: 表の番号は問41の質問内容に対応している。
総回答数520のうち、無回答12を除いた508が分母である。

IV. 自由回答一覧

1. 夫婦票

<問42> 数字は人数

■施設・設備

- ・ 子供が病気になった時に預かってくれる場所・病児を預かってくれる施設 14
(保育園だけでなく、小学生も)
- ・ 就労の有無と関係なく子供を一時的に預けられる施設・ボランティア活動 7
(親が病気の時、母親がリフレッシュしたい時など)
- ・ 働く場での保育施設の充実 6
- ・ 夜間保育 3
- ・ 保育園の増設・入園児数を増やす 3
- ・ 子供を預けられる複合施設(図書館・映画館・スポーツジムの中など) 2
- ・ 土日でも預けられる施設 2
- ・ パート用の保育園・学童保育施設(夏休み中だけ短時間など) 2
- ・ キャリア女性に見合った保育施設。AM7:00~PM11:00 はマスト条件 1
- ・ お泊り保育が可能な公的施設 1
- ・ 自由業で忙しい時だけ預けられる施設 1
- ・ 学童保育園の高学年受け入れ 1

- ・ 夜間診察してくれる小児科/24 時間年中無休の小児科 7
- ・ 待たずにすむ緊急の小児科/待ち時間の短い小児科専門病院 2
- ・ 2人目以上を出産する際、通院・出産時に上の子の世話をしてくれる産婦人科 2

- ・ 乳幼児が1日中遊べる室内の公的施設/雨の日でも遊べる施設 4
- ・ 安全でのびのび遊べる公園・グラウンド 2
- ・ 親子で利用できる公的施設・子供と学習できる公的施設 2
- ・ 乳幼児~小学生までそれぞれが遊べる遊具のある公園 1
- ・ 自転車、三輪車を自由に乗れる交通公園 1
- ・ 児童センターの拡充 1

- ・ ビオトープ。農作業ができる畑(空き地) 1
- ・ 洋式で安心して入れる公衆トイレ。子供便座付き 1
- ・ 子供連れ専用車両やデパート内の授乳室の整備 1

- ・ 駅すべてにエレベーターやエスカレーターをつける 1
- ・ 子供の人数が多ければ格安で入れる公園 1
- ・ 夜間営業し、野菜や惣菜が充実しているスーパー 1
- ・ 公立のインターナショナルスクール 1
- ・ 区営温泉

■ 人材

- ・ 親の具合が悪い時やリフレッシュするためのお手伝いの人 1
- ・ 近所の子供によるベビーシッターのアルバイト 1
- ・ 地域の人によるベビーシッター 1
- ・ 保育ママの増加 1
- ・ 保育士の増員 1

■ 就労環境

- ・ 育児休暇など父親が子育てにもっと積極的になれる制度/父親の産休 4
- ・ 子供が病気の時に気軽に休める会社の環境 2
- ・ PTA 活動への参加、学校行事への参加を認めてくれる職場 2
- ・ 子供がいる女性をきっちり評価できる制度 1
- ・ 育児の合間にできる仕事の紹介や仕事復帰についての相談窓口 1
- ・ 結婚・出産退職後の再就職支援 1

■ 施策・その他

- ・ ボランティアが子供達に無料で教える習い事/低料金で習い事のできる場 3
- ・ 乳幼児医療費助成や育児手当の所得制限廃止 4
- ・ インフルエンザなど必要な予防接種の補助/全予防接種の無料化 2
- ・ 公的家賃補助 2
- ・ 経済的に苦しい時の病気やけがの医療費の保障・免除 1
- ・ ベビーシッター代の助成 1
- ・ 私立入学時の学費援助 1
- ・ 子供1人ずつに対する特別な所得税控除 1
- ・ 親子で参加できるイベント 3
- ・ 自然・動物に触れ合える活動・施設 3
- ・ 公園での管理人の見まわり/子供の安全を守るパトロール 2

- ・ 子供が一人でも歩ける安全な環境作り 1
- ・ 子供の職業選択のために、様々な職種を知る機会/職業体験できる機会 2
- ・ 保育士と親、教職員と親の交流 2
- ・ 子育て相談窓口 2
- ・ 育児サークル 1
- ・ 子供連れに優しい街の環境 1
- ・ スポーツ振興
- ・ 地域コミュニティの活発化 1
- ・ 町内の子供会の活発化 1
- ・ 地方での短期ホームステイ制度 1
- ・ 児童センターの定員増 1
- ・ 多児への優遇 1
- ・ 集団登・下校 1
- ・ 道路の禁煙 1
- ・ 小学校などの情報を収集できる場 1
- ・ 下の子連れでも迷惑と思われない環境 1
- ・ 親のカウンセラー
- ・ 義務教育機関の授業内容の充実 1
- ・ 授業での日本の伝統・文化・芸術に触れる機会の増加 1
- ・ 6年、9年、12年制の学校増設 1
- ・ 30人学級制度 1
- ・ 学校週6日制の復活 1
- ・ 子供の悩み相談所 1
- ・ 預け先や学校に関する口コミ情報、客観的情報 11
- ・ お年寄りと接触できる機会 1
- ・ 祖父母と同居できる環境 1

<最終ページ>

■アンケート関連

- ・ 結果を知らせて欲しい/結果の区政への活用内容を知らせて欲しい 12
- ・ アンケート結果を活用してほしい 6
- ・ 質問が難しい/質問が多すぎて負担が大きい 6
- ・ 答えにくい/答えたくない質問があった 5
- ・ 「少子化」と質問内容が合っていないように感じた 4
- ・ ボリュームが多いので謝礼がほしい 1

■出産・育児に関して

- ・ 乳児医療・児童手当など所得制限をなくしてほしい 15
- ・ 保育所の完備/入園枠の拡大/待機児童ゼロになるように 11
- ・ 仕事と育児の両立が難しい社会環境が少子化の原因となっている/安心して働けない 8
- ・ 妊娠時の検査料が高すぎる/出産費用を無料にしてほしい 4
- ・ 不妊治療に苦しむ人の実情も知ってもらいたい/不妊悩み相談室などの設置 4
- ・ 育児休業後、保育園に復帰できる確証がない 3
- ・ 保育士の増員 3
- ・ 日本の明るい未来がみえず、少子化が進む 3
- ・ 教育費の負担増は出産意欲をそぐ/教育費が高く大変 3
- ・ 低額で充実した保育施設や住宅を多くつくってほしい 3
- ・ 母親が働いていなくても子供を預けられる施設はあるのか 1
- ・ 公立と私企業ぐるみの保育促進が必要 1
- ・ 一時保育など気軽に利用できる公的施設の増設 1
- ・ 保育園の時間延長 1
- ・ 兄弟で同じ保育園に入れないなど不便 1
- ・ 4年生以上も学童保育クラブを利用できるようにしてほしい 1
- ・ 空気の汚れ、子供の遊び場不足では子育てしたくなくなる 1
- ・ 区の出産、育児情報をメールなどで提供してほしい 1
- ・ 仕事をしながら子育てしたいが区のサービスがわからず出産できない 1
- ・ PTA 活動など、小学校入学後の方が仕事と子育てが両立しづらい 1
- ・ 良い産婦人科情報の充実 1
- ・ 急病の小児科がほしい 1
- ・ 公園などの遊び場の充実 1
- ・ 困った時に助けてくれる手 1

- ・ 労働時間を短縮し子供や家族と過ごせ、経済的にも困らない社会になるとよい 1
- ・ 出産のネックは、お金・住居・子供を預かってくれる場所の3点 1
- ・ 幼稚園にも補助金などを考えて欲しい 1
- ・ 保健所の“たんぽぽクラス”はとても良い 1

■区の施策について

- ・ アンケートにあるような各種施設・施策をもっとアピールしてほしい 4
- ・ 「すまいるスクール」を全学校ではじめてほしい 2
- ・ 少子化よりも介護老人問題のほうが切実 2
- ・ 学校選択制が子供に良いのか疑問、見直しをしてほしい 2
- ・ 学校だけでなく、教師も選択制にしてほしい 1
- ・ 学校選択制なのに、区役所の学務課がブロック以外での選択を拒む 1
- ・ 学校選択制の学校公開日が平日だと有職者は行かれない 1
- ・ 大井町に低額もしくは無料の駐輪場を作してほしい/現駐輪場の価格の見直し 2
- ・ 小学校の空き教室を利用した子供とお年寄りとの交流企画を期待する 1
- ・ 保健所の母親学級や子育て相談は土日にも開催してほしい 1
- ・ 児童センターはとてもよいが、もっと気軽に利用できるプログラムなどがあると良い 1
- ・ 児童センターをもっときれいにしてほしい 1
- ・ 子供が参加するプログラムは私立通学者にもアナウンスしてほしい 1
- ・ 放課後、学校開放をしてほしい 1
- ・ 40代以上の女性の就業促進 1
- ・ 道幅が狭い。子供連れでも安心して歩けるよう歩道を整備してほしい 1
- ・ 交通事故や犯罪など安全に子育てできる環境作りをしてほしい 1
- ・ PTA や地域のボランティアに頼りすぎている 1
- ・ 駐車場付きの区営住宅の充実 1
- ・ 区民が意見を伝えられるような窓口(区のホームページへの書き込みなど)の設置 1
- ・ 都営住宅、保育園など利用のための手続きが面倒くさい 1
- ・ 区界の居住者は区を越えて利用できる施設があるといい 1
- ・ 各種サービスの質が低下しているように感じる 1
- ・ 男女平等参画の推進 1

2. 独身者票

<最終ページ>

■ アンケート関連

- ・ 調査結果と今後の方針を知らせてほしい／広報で発表してほしい 17
- ・ 調査の結果を区政にちゃんと反映してほしい 8
- ・ 子供を産めない人のことも考えて欲しい 2
- ・ アンケート内容が不明瞭・誘導的な質問がある・選択肢が偏っている 14
- ・ アンケート協力者には謝礼を出すべき 6
- ・ 選択肢形式より自由回答形式の方が参考になるのでは？ 2

■ 「少子化」関連

- ・ 結婚・出産・子供の養育をためらう理由／少子化の原因
- ・ 現在の収入と将来への不安感 6
- ・ 不況に加え、保険・年金など経済的理由で結婚・出産を回避している人は多い 3
- ・ 未来に希望がないという日本の現状 1
- ・ 少子化の原因は、①老後不安 ②狭い住宅 1
- ・ 子供が少なくなるのは税金が高いから 1
- ・ 育児の大変さ、育児環境の貧困さが出産をためらう大きな要因の1つ 1
- ・ 少子化の原因は、女性の自立のための支援体制がなかなかとられなかったため 1
- ・ 少子化対策
- ・ 区営託児所、保育園の夜間延長、保育ボランティアなど子供預かり施設・サービスを充実してほしい 4
- ・ 保育所の充実、主婦がフルタイムで働ける職 1
- ・ 情報に流されずに自分で考えて行動できる人間を作ること 1
- ・ 父親も育児に参加すべき 1
- ・ 行政はパートタイムで働く若い世代を支援するような税制や法律の運用をしてほしい 1
- ・ 少子化は先進国の宿命。アジアの協調、安定以外に日本の未来はない 1
- ・ 結婚年齢があがっている原因は職場のOA化・効率化による男女の分断 1
- ・ 自分のやりたい仕事は多忙で定時帰宅や土日休みは無理 1
- ・ シングルマザーにも北欧のように援助してもらいたい 1
- ・ 安心して子育てできる環境を整備してほしい 1
- ・ 品川区在住の男女の出合いの場を企画してほしい 1

■ 品川区政について

- ・ 区民税を安くしてほしい／区民税が高い 2
- ・ 土日休み、夕方以降の受付 NG でサービスが最悪。人数 7 割でも充分 1
- ・ 区役所は 17 時までなのに、16:50 には帰り支度をしている 1
- ・ 交通の便の見直し 1
- ・ マンションが増え、そこの住人のマナーが悪い 1
- ・ 保育所の充実、歩きタバコやポイ捨て禁止で、緑が多く暮らしやすい街づくりを望む 1
- ・ 千代田区のような環境条例（ポイステ禁止）を作してほしい 1
- ・ 少子化より老後の福祉を考えてほしい 1
- ・ 都営アパートにはもう少し低収入の人が入れるようにしてほしい 1
- ・ 結婚後も品川区に住めるよう住宅関連の充実を 1
- ・ 福祉をうたっている区にしては公共サービスが欠落している 1
- ・ インターネットの活用で幅広い区民の意見の吸い上げを 1

V. 調査資料

1. 単純集計結果

- 1-1. 夫婦票集計結果 (59)
- 1-2. 独身者票集計結果 (97)

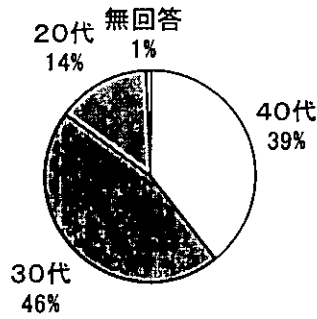
2. 調査票 (夫婦票、独身者票)

- 2-1. 夫婦票 (124)
- 2-2. 独身者票 (141)

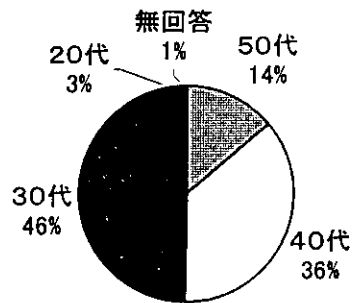
1-1. 夫婦票集計結果

問1

調査対象の年齢分布



調査対象(夫)の年齢分布



問2-1

結婚生活を開始した年月

